
相談屋

灯人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

相談屋

【Nコード】

N0510H

【作者名】

灯人

【あらすじ】

茜色に染まる教室。黒板にのびる二つの人影。「助けて穂月さん」
- - - 私は、このクラスの相談屋だ。 - - - ある町の、ある中
学校の、あるクラスの、とある相談屋のお話。

1：放課後の教室（前書き）

更新は亀の歩みよりも遅いです。

1：放課後の教室

「わたし、どうすればいいのかなあ？」

場所は教室。時間は放課後。向かい側には女の子。二人きり。これを聞いて、一番最初に思い浮かぶのはやっぱり告白とかだと思っ

う。

けれど、残念なことにそれは違う。

ここにそんな甘い空気は流れていないし、第一に、私も女だ。

「お父さんもお母さんも、どっちも浮気してるんだよ？二人ともそのこと知ってるのに、別れようとしさないの。わたしと弟のためとか言って、わたし達にストレスぶつけてくるの」

相手の女の子は、泣きそうになりながらも吐き出すようにしゃべり続ける。

「もうわたし限界。家じゃ寝る余裕もないから、授業中眠くなって成績も落ちるし」

ついに溢れ出した涙を、不思議な心地でながめた。どうして、ほとんど話したこともないような相手に、そんな相談ができるのだろうか。

答えは、決まっているけれど。

「わたし一人じゃ、弟を庇うこともできない状態なの。もう、どうすればいいか分からなくて」

そんな私の心境にも気付かず、目の前のクラスメイトは^{すが}絶るような目つきで私を見つめる。

「助けて、穂月^{ほつき}さん」

そう

答えは決まっている。

私が、このクラスの相談屋だからだ。

2：隠された共通点

昨日のテレビ見たー？あれさあ

杉浦くんの好きな人って

っーかあいつマジうざいよね

ああやばい次えび先の授業じゃん宿題が

昼の学校は、とても賑やかだ。

女の子達の恋愛話

テレビの中のアイドルの話

影で飛び交う、誰かの悪口

自分の不安の暴露大会

授業の合間の休み時間は、まさに大盛況中の動物園のよう。

授業中だって、この状態はあまり変わらない。

思春期・反抗期・成長期。やたらと期が付くこの年頃は、話題が途切れることを知らないのだ。

そのトリプル期を詰め込んでいる、この狭い教室には、腰パンしている男子もいれば、厚化粧している女子もいる。

真面目に勉強しているグループもあれば、マンガを読んで大声で笑っているグループもある。

自分には関係ないという顔をしている人もいれば、クラスの皆を止めようと、一人でおろおろしてる人もいる。

私達がすることはいつだってバラバラだ。

だから、大人も国も、うまくまとめることができないのだろう。

けれど、よく見ればわかるはず。

いつだってバラバラな私達にも、共通する所があるのだ。

それは

「あはははは！なにそれ、マジ？」

ひととき大きな笑い声が、教室に響いた。

学年の中でも目立つ、厚化粧グループだ。

さっきの声は さくたみか 笹田美香。

厚化粧グループの筆頭者だ。

明るい茶色に染め上げた髪に、マスカラで囲われた大きな眼。

髪をかきあげている手の先には、ピンクと白でコーディネートされた爪がある。

制服なんて、有って無いようなものだ。

「マジ。あつ歌手といえばさ、放課後ミカもカラオケ行くつしょ？」
「あー・・・、あたしいま金欠なんだよね。無理かも」

「えー、この前もそういつてたじゃん！金なんてちよつとかわいく親父に頼めばすぐくれるつて」

「・・・ハナ、あんた何やってんの」

笹田美香のとなりで危ない発言をしたのは、厚化粧グループにはめずらしいナチユラルメイクの子。

たしか、なかもりはな仲森華。

「ジョーダンだって。本気にしないの！ミカつてへんなとこ真面目だよねー」

「ほつとけ！」

バン！

硬い音が響く。

その音は、右斜め向かい側にいる厚化粧グループからではなく、もつと前のほう。

教壇から聞こえてきた。

「おい、お前ら静かにしろ！まだ授業やってんだろつが。席着け席！」

授業終了10分前に注意するのは遅すぎると思つが、先生の登場だ。

皆は文句を言いながら、それぞれの席に戻つていく。

ここで反抗するよりも残りの10分間を耐えた方が、早く終わると

踏んだのだろう。

ガタガタと椅子を引く音と、先生が授業を再開する声。

それに交ざって聞こえた仲森華の言葉と、笹田美香の表情に気づいたのは私だけだろうか。

「うそつき。」

笑顔の裏に、隠してるもの。

ふざけた態度の奥に、隠れているもの。

みせる自分と、みせない自分。

それが、いつだってバラバラに見える私たちの、唯一の共通点。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0510h/>

相談屋

2010年11月21日03時19分発行